

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心生き活き、心楽しく、そのひとらしく」という理念を掲げている。	○	日常的サービスと「地域」がどのような関係性を持てるのか、まずは皆で考える機会を持ちたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を誰でも見やすいように、玄関・事務所に掲示している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族等には来訪時に理念の趣旨について説明し、地域に対しては運営推進会議などで、ホームの理念として紹介している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入しており、回覧板のやりとりなどで挨拶を交わす機会がある。また、昨年同様、ホームの夏祭りに地域からの参加を得た。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の集會に参加し、ホームの存在を知ってもらう機会としている。	○	集會だけでなく、行事や諸活動へも参加して行くことで、地域とのつながりを深めてゆきたい。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入り口の看板に、「介護相談応じます」と掲示している。	○	多様な相談に応じて行けるよう、認知症や諸制度について、個々の職員が理解を深めて行くことが必要。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、自己評価に参加する職員を増やした。業務の進め方を見直し、自己評価により多くの時間を使えるようにした。	○	今回も全職員が参加するには至っていない。皆が少しでも、何らかの形で関わられるよう取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームとして出来る地域への貢献(町内一斉清掃への参加等)や災害時の助け合い等、議題が少しずつ具体的になってきている。	○	単に話し合うにとどまらず、実行に移すことで、地域からよく顔の見えるホームにして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類上のやり取りだけでなく、行政の担当職員とは直接意見や情報を交換することで、信頼関係の醸成に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に職員を派遣し、制度の理解に努めている段階。実際に、制度活用についての議論が起こるまでには至っていないのが現状。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に職員を派遣し、意識向上に努めている。	○	日頃接するなかで、無意識のうちに入居者を傷つけることをしていないか、常に自己反省を怠らないようにしたい。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書により、詳しく説明を行っている。入居者、家族等からの質問には、納得の行くまで説明を重ねている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員に届いた入居者の要望等は放置せず、カンファレンスにかけるなどし、きちんとレスポンスするようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一回「お便り」(日々の様子、行事のこと、健康状態等が主な内容)を家族宛に送付している。金銭については、月々の出納内容を領収書つきで送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「ご意見箱」を設置し意見を求めている。また、家族と話す機会には、会話の中から思いや要望を汲み取るよう努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回のホーム会議を報告・意見交換の場としている。また、適宜カンファレンスを開き、日常的な議論の場としている。</p>	<p>○ 勤務形態上、パート職員のカンファレンスへの参加が事実上不可能な状態にあるため、この点を改善したい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>9:00～18:00の「日勤」、16:00～10:00の「夜勤」に加え、10:00～19:00の「遅出」を設け、日勤者退勤後もゆとりのあるケアを提供できるよう努めている。</p>	<p>○ 慌しくなりがちな朝の時間帯を、入居者に出来る限りゆったりと過ごしてもらえよう、「早出」の勤務形態も検討してみたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>担当者変更による影響を最小限にするため、日頃から情報は職員間で共有するようにしている。また、アセスメントを詳細に行うことで、職員によってケア内容に差が生じないように気をつけている。</p>	

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時研修を実施している。また、外部研修へも積極的に参加するよう職員に働きかけている。</p>	○	<p>まだ外部研修に参加する機会のない職員もいるので、全職員が研修を通してスキルアップできるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列のグループホーム間で、相互交流を進めている。また、地域の「北区の認知症介護を考える会(仮称)」のメンバーとして、管理者を派遣している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>現場は、管理者・職員の民主的運営に委ねるところが大きい。また、不定期に運営者による個人面談を行い、相談の場としている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者―管理者間で職員の働きぶりについて、情報を共有している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人及び家族の希望により自宅かホームでよく話を聞いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人及び家族の希望により、自宅かホームでよく話を聞いている。</p>		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めているサービスをよく伺い、こちらができるサービスをしっかりと説明する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学(入居を前提としない場合も)実施。ホームになじめる工夫を入居前に家族とよく話し合った上で、入居日等を決定している。	○	入居後も落ち着かれるまで、家族と連絡を取り合い、早くホームになじんでいただくよう支援している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションをよく取るよう努め、料理や畑のこと、家事等でアドバイスを頂いている。	○	入居者様は色々なことを知っておられるので、たくさん情報を得たい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面接時の報告。 面会時、一緒に過ごす。	○	面会時、居室で一緒に過ごしてもらえるようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の報告。 家族の行事への参加。 家族との外出・外泊。	○	夏祭りのほかにも行事に参加してもらえるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントで、利用者がこれまで築いてきた人間関係の把握に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	さりげなくその場面において、支え合える様支援している。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	介護支援専門員間の情報提供や家族への電話。	○	行事への案内。 機関紙の配布。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントによる聞き取りや、日常会話及び日常生活により把握。	○	アセスメントにより、本人・家族の意向を反映している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる聞き取りや、日常会話、家族様の協力により出来るだけ把握。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕の申し送り、ケース記録。日勤帯や、夜間の状態を把握。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議	○	本人や家族にはセンター方式を使用し、情報収集を行い、朝・夕の申し送り時に、カンファレンスを開催し、本人がよりよい暮らしをしていただける様、課題とケアのあり方について話し合う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、ニーズの変化が見られる場合、再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し、計画の見直しを行っている。	○	モニタリング・サービス担当者会議を軌道に乗せる。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の整備と必要に応じたカンファレンスの実施により入居者の実態に即したものになる様努めている。	○	ケース記録はフローシートを使用し、見やすく工夫し、ケアプランの見直しに生かせる様に行っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外食や通院に一緒に行ったりと、その時々々の必要に応じている。また、定期的に日中は自宅に戻り、夜のみホームで過ごすという入居者もいる。	○	今後も、家族の意向に柔軟に応じていけるよう努めたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練、救命講習(消防) ホーム外徘徊時の捜索(警察) 大学生によるレクリエーション(ボランティア)	○	大学生によるボランティア活動
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時にはリハビリの接骨師を受け入れるなど柔軟に対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で意見交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と訪問看護、緊急時の対応。 内科医(1回 / 2W) 訪問看護(1回 / 2W) 歯科医(1回 / 2W) 24h の連絡体制と急病時の往診。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>必要性が出来た場合には、専門医に受診を依頼する。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>訪問看護以外でも、特変があれば連絡を取っている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>医療関係者と本人・家族が方針を立てる場をセッティングしている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせる為、ケアカンファレンスを軌道に乗せる。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>必要性が出てきた場合、介護サマリーを作成する。</p>



グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、コミュニケーションをはかる。極力、同性介護に努めている。個人情報の取り扱いの徹底。	○ 利用者の思いなどを尊重し、今後さらにプライバシー確保に徹していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常会話などから、本人希望などをさりげなく聞きだし、自己決定を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の一日を大切に、その人らしい生活ができるように支援している。	○ その人らしい暮らしが送れるように支援して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ビューティーヘルパーを依頼し、本人の希望したヘアスタイルを職員が伝えている。	○ 本人が希望する店があれば、出来る限り行けるようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあらかじめ決まっているが、場合により個人の状況に合わせた食事形態に配慮している。	○ 入居者さん自身が食べたい物を考え、極力買い物から後片付けまで全員参加型で行えるようにしたい。外食に出掛ける機会を設けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	実際提供できているのがごく限られた一部のみで、本人が希望するものは、安全性や健康面が優先し、実行できないのが現実である。(酒・タバコなど)	○ 希望があれば、行事などの機会に、ビール等提供するようになっている。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表などで、排泄のリズムをつかむ。 オムツ・紙パンツ使用に関して必要性の見直しを常にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、日中に入浴している。 本人の体調などを配慮した上で、日をずらしたり、希望があれば入浴回数を増やしたりもしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、個人の習慣に任せている。 不眠時には、話を聞いたり、温かい飲み物を提供し、眠りにつきやすい雰囲気作りを行う。	○	なるべく日中に体を動かすなど、生活リズムを整え、眠れるようにする。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での農作物の収穫や園芸。 月1回、フラワーアレンジメント、外食、お誕生日会での特別食の提供。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者には、定額を所持して頂き、朝・晩職員が所持金の確認を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に近くまで散歩に行き、季節感を感じたりして、外に出る楽しみを増やす。	○	集団ではなく、個別対応での外出に取り組みたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を通じ、全体での外出を行っている。	○	行事としての外出に、家族が参加できる機会を設けていきたい。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時には、電話介助を行っている。 暑中見舞い、年賀状、手紙など本人の希望の宛先に(職員が確認のうえ)出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人などが訪問に来た際には、訪問者と入居者さんが気軽に話せる場所を提供している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、研修報告を行っている。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門に施錠しているが、玄関は開放しており自由に出入りできる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内の移動時には、所在を確認し、入居者の安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己判断が難しい人には、使用する際は職員が必ず付き添いや見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修へ参加し、研修報告を行い知識を共有している。 マニュアルを作成し、緊急時に備えている。	○	誤薬を防ぐため、表を作成し、チェックをしている。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、救命講習を実施している。	○	訓練内容を確認する意味で、定期的に施設内訓練を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署による訓練を行っている。 火災通報装置を新設した。 町内の方に、災害時の避難への協力を運営推進会議の場で要請した。	○	町内と共同で訓練する機会を設けたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	夜間、転倒を防ぐためセンサー等を取り付けている。 家族ともその都度話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の申し送り時に、体調の変化等を伝え、その都度対応している。 急変時には、協力医療機関へ連絡し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、医療専門職と情報交換している。 服薬による、症状の変化があれば医師に報告している。	○	個々にあった薬の形状(錠剤・粉)を、適宜、医師に提案していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的に散歩や運動などをし、自然排便を習慣付けるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・昼・晩、口腔ケアを行っている。 介助の必要な入居者には、職員が行っている。 義歯は、義歯洗浄剤にて清潔保持に努めている。	○	虫菌などを作らない為に、口腔ケアを徹底する。 食事を美味しく食べてもらう為にも良い。

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を個別の表に記入している。 食事量や形態については、個別に提供している。 食事が入らない人には、医師の指示のもとエンシュア等で栄養を摂る。	○	主治医や看護師に相談している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、消毒を実施している。 インフルエンザは、予防接種を行っている。(往診時)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイター消毒、食器乾燥機などを使用している。 冷蔵庫内も清潔にし、衛生・品質管理を行っている。	○	食器等、煮沸消毒に取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近は鉢植えや花壇、犬小屋、洗濯物干し場があり、家庭的な雰囲気が感じられる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周辺は自然に恵まれ、常時、季節感を感じることが出来る。花壇に花を植えたり、リビングに手作りカレンダーを貼ったりし、和やかに過ごしてもらえるよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置いたり、冬にはコタツを置き、和んでもらっている。		

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みの家具を持って来ていただく様、家族に伝えている。	○	入居の際、本人の希望により、居室を床から畳に変更している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや居室のエアコンの調整、居室は日中網戸にし、空気の入れている。	○	特ににおいの気になる居室には、芳香剤を使用している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段、リビング内、トイレ、風呂等に手すりを付けている。	○	個人の必要性に応じ、設備改善に努めて行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口やトイレにはプレートを付け、分かりやすく工夫している。 アセスメントやケアカンファレンスで、入居者の状態を把握し、寄り添える環境を作っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の庭を人工芝にし、ベンチを並べて外気浴をしたり、歌を唄ったりしている。 犬を飼い、ふれあいを楽しみにしている入居者さんもいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム安らぎ(Bユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然環境に恵まれている立地条件を生かし、入居者様がゆったりとした気分で生活を楽しんで頂けるよう、今後も心がけていきたい。